

コラム 26 ー台湾で地下ダムを作った鳥居信平

地下ダムを造るためには、地盤沈下が起こらないような堅牢な地層、止水壁を建設するのに都合のよい基盤、貯水域に補給できるだけの降雨量と地下水、以上 3 点が絶対条件でした。さらに綿密な調査を繰り返した結果、林辺溪一帯が 3 つの条件を満たしていることを突き止めました。次に、河床をどれくらい掘って堰を埋めれば安定して伏流水を確保できるかを探り、結局、地下 7. 27 メートルの深さに決定したのです。この地下ダムは、80 年以上が経った現在でも 1 日あたり雨期なら 12 万トン、乾期でも約 3 万トンの供給量を誇り、どんなに豪雨が降ろうとも地下水のため濁らず、飲料水としても役立っているのです。しかも普通のダムと違って底部に土砂が堆積しないだけでなく、電力を使わないので、維持管理にお金がかからないのです。戦後、二峰圳の補修工事は屏東县政府と国営企業の『台糖』の両者が共同で行ってきたが、これまでに大規模な修理は台風の被害を受けた 3 回だけで、普通のダムに比べてはるかに管理がたやすいのです。鳥居は、原住民たちの狩り場や漁場を奪うことなく、周囲の風景もそのままに、伏流水を使って自然に優しい工法を思いついたので、屏東県では、現在でも鳥居信平の工法を参考にして洪水であふれた林辺溪の水を人工池に溜め、地下水を増やすことで地盤沈下を防ぐ事業を進めています。

また、高雄県との県境を流れる高屏溪の支流では、取水堰を造り表流水と伏流水を取り入れる工事が始まりました。さらに、大甲溪や老濃溪でも、信平の発想を取り入れた取水工の計画が進行中です。

2009 年 7 月 12 日、静岡県袋井市で、台湾での鳥居信平の水利事業に対する功績をたたえ、台湾の篤志家である許文龍（きよぶんりゅう）氏から袋井市に鳥居信平の胸像が寄贈され、胸像除幕式が行われました。除幕式には、台湾から屏東県長の屠啓鴻（そうけいこう）氏をはじめ、10 人の皆さんが、また、市内外から約 200 人が訪れ、胸像の除幕を祝福しました。この除幕式が終わった直後、8 月 7 日から 8 月 9 日にかけて台湾中南部に台風が襲い、死者 700 人以上、崩壊道路は 306 箇所を上る甚大な被害がでました。このとき、二峰圳付近の 2、30 年前に作られた堤防や橋はすべて壊されたのにもかかわらず、80 年以上前に作られた地下ダムはほとんど被害がなく、台湾の人々を驚かせました。